

講義録レポート

講義録コード

11-07-1-501-04

講 座	証券アナリスト	科目①	D
目標年	2007年合格目標	科目②	経済
コース	1次セミナー	回 数	1 回
用 途	☒ 個別DVD ・ ☒ テーブルレクチャー ・ ☐ 集合ビデオ ☒ WEB ・ ☐ 衛星 ・ ☒ カセット通信 ・ ☒ DVD通信 ・ ☐ 資料通信		

収録日	2007 年 5 月 27 日		
講師名	小川 先生	講義録枚数	3 枚 ※レポート含まず
		補助レジメ枚数	7 枚 (サイズ)

講義構成	講義 (55) 分		
使用教材			
配布物	有 ・ (無)		
正誤表	有 ・ (無) 枚		
備考			
	○ 共通レジメ 有 ・ (無) 第 () 回講義と共通		

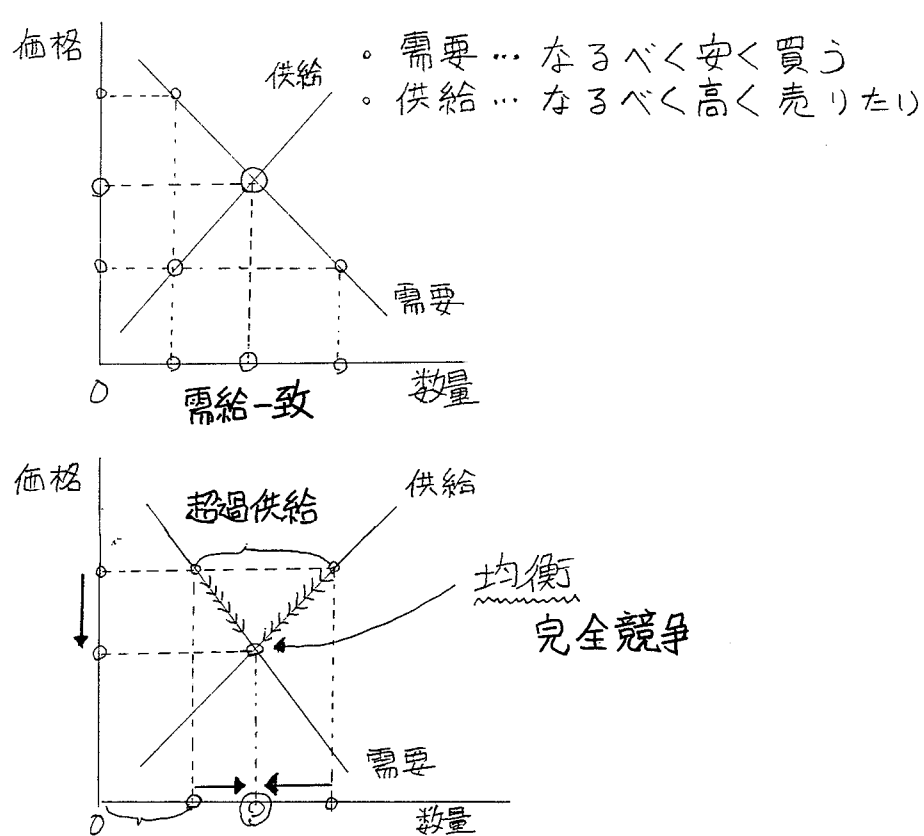
証券アナリスト講義録	科目 経済	コース 1次セミナー	回数 D
------------	----------	---------------	---------

配布物	★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 小川 先生
-----	--	--------------------------------------	-------------

テキスト ページ	黒 板 内 容
	証券アナリスト 1次セミナー 経済 従来 … 本年10月試験まで ①/3。マクロ GDP, 利子率, 物価, 雇用 ①/3。国際金融論 為替レート, 経常収支 ①/3。金融論 金融市場, <u>金融政策</u> 日本銀行 来年度(春)より ・ <u>ミクロ</u> … 新たに導入される (25%~) ・ マクロ ・ 国際金融論 ・ 金融論

証券アナリスト講義録	科目 経済	コース 1次・ゼミナ	回数	D
------------	-------	------------	----	---

配布物	★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 小川 先生
-----	--	--------------------------------------	----------

テキスト ページ	黒 板 内 容
	・ <u>経済学</u> { ◦ マクロ… <u>一国全体</u> ◦ ミクロ… <u>個々の経済主体</u> ↓ 証券分析 (: 家計(個人) : 企業 ・ 市場  価格 供給 需要 数量 需給一致 超過供給 均衡 完全競争

証券アナリスト講義録	科目 経済	コース 1次・ゼミナ	回数 D
------------	----------	---------------	---------

配布物	★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 c. 111 先生
-----	--	--------------------------------------	-----------------

テキスト
ページ

黒 板 内 容

- 財市場 … 財(モノ), サービス を取引
- 労働市場… 労働力 を取引
- 資本市場… 資金 の貸借

	需要	供給
財	家計	企業
労働	企業	<u>家計</u>
資本	企業 (家計)	//

証券アナリスト試験

1 次経済セミナー

「経済学のマクロとミクロについて」

TAC 証券アナリスト講師室
経済担当 小川

・ 1 次経済への対策～従来の場合

3 分野の広範な理解が必要

- ① マクロ経済（GDP、利子率、物価、雇用の決定）
- ② 国際金融論（為替レート、経常収支の変動要因の分析）
- ③ 金融論（金融市場の機能と仕組み、日本銀行の金融政策）

⇒ 例年、各分野から同程度の出題数がみられる。
全出題数（60 問）を各分野でほぼ 3 分の 1 ずつ配分。

⇒ まずは、偏り無く一通りの全体像を掴むことが先決。

・ 新プログラムへの移行について

⇒ 現行のプログラムでの試験は、秋（10 月）で終了。

⇒ 来年より試験が始まる新プログラムでは、新たな分野・内容が追加される。

⇒ 経済では、従来は出題ウェイトの小さかったミクロ経済学が大きく取り上げられることになる。

はじめに ～経済学についてーマクロとミクロ～

経済学は、個人、企業、政府などの様々な経済主体が、どのように選択し、その結果、社会の資源がどのように使われるかを研究する学問である。一般に、経済学は、大きくマクロ経済学とミクロ経済学に分けられる。

○ マクロ経済学 (Macro Economics) :

一国全体で集計された変数 (GDP、失業率、物価、経常収支など) の決定・変動のメカニズムを主たる分析対象とする。

○ ミクロ経済学 (Micro Economics) :

家計や企業、政府といった個々の経済主体の行動から導かれる市場の資源配分のメカニズムを主たる分析対象とする。

ただし、マクロ経済学で取り扱われる GDP などの一国全体を対象とした経済変数も、ミクロの経済主体の行動が集積することによって決定されている。すなわち、マクロ経済学とミクロ経済学は、最終的な分析対象やアプローチの方法には相違点がみられるものの、互いに密接不可分の関係にあるといえよう。

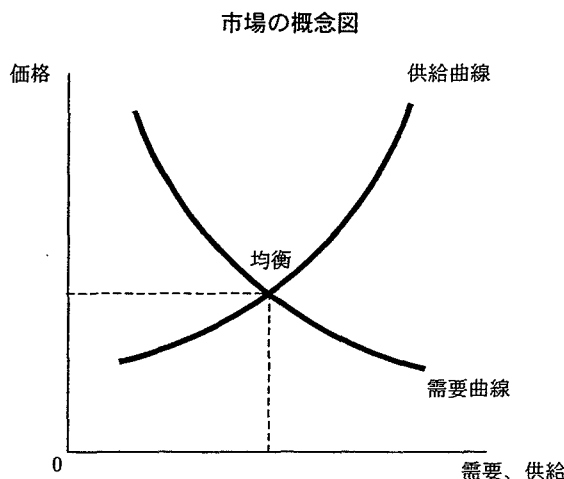
1. 経済学における市場

冒頭に示したように、経済学では、資源配分メカニズムを取り扱う。個々の経済主体が、財（またはサービス、資金、労働力）を交換し、その結果として資源配分が行われる場が市場（しじょう）である。経済学を学習する上で、市場の理解は欠かせない。

市場では、取引される財に対する需要と供給が存在し、価格と取引量が決定される。

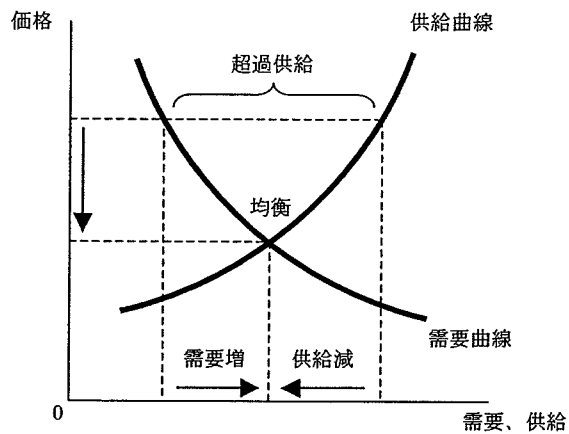
需要とは、所与の価格（与えられた価格）の下で、家計や企業などの経済主体が購入しようとする財の量を表したものであり、それぞれの価格に対応した需要の量を結んだ曲線は、需要曲線と呼ばれる。通常は、価格が低下すれば、需要量は増加すると考えられるので、需要曲線は右下がりの形状である。

供給とは、家計や企業が所与の価格で販売したいと考える財の量を表したものであり、それぞれの価格に対応した供給の量を結んだ曲線は、供給曲線と呼ばれる。通常は、価格が上昇すれば、供給量は増加すると考えられるので、供給曲線は右上がりの形状である。



均衡とは、もはや変化を引き起こす力が働かない状態のことである。このとき、消費者は買いたい価格で買いたい数量の財を購入しており、企業は売りたい価格で売りたい数量の財を販売している。均衡では、取引価格は一つに定まり、需要量と供給量は一致している。

均衡に至るプロセス（超過供給が発生している場合）



仮に当初の価格が均衡価格よりも高ければ、供給量は需要量を上回ってしまう（超過供給）。市場が効率的に機能すれば、価格が低下するとともに、需要量は増加、供給量は減少する。その結果、超過供給は解消し（ゼロになり）、需要量と供給量は一致して、市場は均衡する。

これまでは市場の一般的な性質をみた。次に、経済学に登場する代表的な市場を紹介する。経済学に登場する代表的な市場として、①財市場（または生産物市場）、②労働市場、③資本市場、の3つがある。

例えば、家計は、消費者として財市場を通じて製品やサービスを購入（需要）している。他方、家計は労働市場に労働サービスを販売（供給）することによって、賃金を受け取っている。資本市場に対しては、預貯金や証券投資の形で資金を貸付けている家計もあれば、住宅ローン等で資金を借入れている家計もある。

The diagram illustrates the circular flow of income and products between the household sector (家計) and the business sector (企業) through three markets: goods market (財市場), labor market (労働市場), and capital market (資本市場).

- 家計 (Household Sector):** Represented by a rectangle at the top.
- 企業 (Business Sector):** Represented by a rectangle at the bottom.
- 財市場 (Goods Market):** Represented by an oval on the left.
- 労働市場 (Labor Market):** Represented by an oval in the center.
- 資本市場 (Capital Market):** Represented by an oval on the right.

The flows are as follows:

- 財市場 (Goods Market):**
 - From 家計 to 財市場: 財の購入 (Purchase of goods)
 - From 財市場 to 企業: 財の販売 (Sale of goods)
- 労働市場 (Labor Market):**
 - From 家計 to 労働市場: 労働力の販売 (Sale of labor power)
 - From 労働市場 to 企業: 労働力の雇用 (Employment of labor power)
- 資本市場 (Capital Market):**
 - From 家計 to 資本市場: 資金の貸付 (Lending of funds)
 - From 資本市場 to 家計: 資金の借入 (Borrowing of funds)
 - From 企業 to 資本市場: 資金の借入 (Borrowing of funds)

《参考》 1次試験合格状況

() 内は前年

科目別	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)
証券分析と ポートフォリオ・マネジメント	3,625 (3,871)	1,632 (1,654)	45.0 (42.7)
財 務 分 析	4,021 (4,068)	1,947 (1,717)	48.4 (42.2)
経 済	3,630 (3,889)	1,496 (1,835)	41.2 (47.2)
合計 (延べ)	11,276 (11,828)	5,075 (5,206)	45.0 (44.0)

(出所) 日本証券アナリスト協会HP